

事務所の古時計

川前の「村勢要覧1964」を広げてみると、「川前葉たばこ取扱所」の写真が。(下の写真は同書より) さらに調べてみると住所は矢田谷地74番地。今のJA川前支店のあたりですね・・・。



ということでJA川前に来ました。「川前葉たばこ取扱所というのがあったそうで、住所が矢田谷地なんですが、どのあたりでしょう？」若い職員の方々はきょんとおりましたが、支店長が通りかかり、「そごそ」と教えてくれたのは、お隣にあるJAの倉庫・・・。



ちょっと増築していますが、昔のままです。雰囲気残ってますね。2階に事務所があるというので見せていただくことに。ありがとうございます！



古い資料などが山と積まれる中、ひとつの柱時計が目にとまりました。「巻けば動くけども、すぐ止まっちゃいます。」と根本久支店長。時計には、「贈 昭和二十八年

たばこ耕作教師 根本一」と書かれています。昭和28年は、この建物が落成した年。



この根本一さんとはどんな方なんでしょう？「もう亡くなったけど、今はね、久二さんでウチ。殿林が山下谷に折れるどごの2軒目だから、行ってみたら？」よし、行ってみましょう。ちなみに共通語では「ハジメ」ですが、このへんの発音は「ハシメ」なので、以後「ハシメ」と表記します。

ハシメさんを辿って

「真面目な人だった、とにかく。」と根本久二さん。ハシメさんは兵隊にとられ、17人しか生き残らなかった作戦に参加。傷痍軍人となって帰国したそうです。「よく分かんねげんと、足に弾入ってだみだい。あんまりそういう話、しながったがら。」若かりし頃のハシメさんの写真を見させていただきました。カッコいい・・・。



たばこ耕作組合小野新町出張所の指導員として働いていたハシメさん。その後、乞われて川前村の担当となり、耕作地の面積拡充をめざして日々奮闘。一大産地とした功労者でした。ハシメさん夫婦には子供がいなかったため、久二さんは養子だそうです。



弓道五段。ハシメさんは弓の名人でした。熊倉神社の祭礼で弓を引いていたとのこと。そういえば9月15日が大祭です。久二さんは弓をやらなかったそうですが、息子の一二さんは四段の腕前。今年の祭礼で弓を引くそうです。これは行かなきゃいけません。



その後も気づけばハシメさんの話。「沢尻がら出た人だよ。」沢尻なの!?「石合だ。嘉次さんとご。」石合って？「なんつったらいいんだべ。このへんの人なら石合ついたら一発だげんと・・・。」うーむ。「花畑ね。」花畑？「くだってって左さ入んの。」・・・このへん？「ちが一、まっと行きな。」・・・どこ!?「イノシシの電気柵のどご折れん、しばらくだ。」・・・ここか!「ハシおんつあ?だったらナミコばあだな。電話してやっけ今?」ありがとうございます!・・・ふう・・・長い道のりでしたがとうとう、ハシメさんの実の妹!根本浪子さん宅に辿りつきました!



「とにかく、男が男に惚れるというような人だった。」浪子さんの一言目はこうでした。「歩ぐどき、肩をこいながらせでね。肩にも弾入ってだんでねーがな。」ケンカや言い争いなんて絶対になかった。弓が上手で、字も上手。誂いの先生もやった。いつも弁当持って、バイクであちこち走り回って、人の家で御馳走になるのは申し訳ないからと、山の中で一人で昼食をとっていた・・・。浪子さんの話からは、おおらかで真面目で多才、なんとも人を惹きつける魅力を持ったハシメさんの人柄が伝わってきます。

「みんなでこう、夜に炉端で煙草の葉をのしてとね、眠たぐねーように、いろんな話してくれどもんだ。本読んでくれだりね。そういう人だったな。」夜になると干した葉を2人1組で丁寧に広げていく作業「葉のし」がありました。今回あちこちで聞いた、たばこ農家の苦労話。「でも自分では絶対手えださねーだよね。あはは。」と話す浪子さん。なんだかとても幸せそうに見えました。

山里にあふれる色彩



9月15日、上桶売熊倉神社例大祭。あいにくの凄まじい土砂降り・・・それでも神事は粛々と進みます。午後になるとなんとか持ち直しました。



桶売小中学校の子供たちによる「浦安の舞」。この日のために稽古を重ねて来ました。素敵でしたよ!



ハシメさんのお孫さんにあたる一二さん。先生としてお手本を披露されていました。流石の腕前。その後「三十六矢の神事」が執り行われます。



「至誠礼節に徹し、五穀豊穰、氏子安全を祈願し、感謝の念を表すものでなければならない」と教えていただきました。6名が6本ずつ矢を放ち、よって「三十六矢の神事」。平成二年までは百矢を射っていたそうです。みなさんの狩姿が凜々しすぎます。



無事に神事を終えた後は、背広に着替え、築190年の社務所で直会です。「ハシメさんは高下駄履いで、唐草の風呂敷包みで、カランコローンと歩いてきてなあ。いやあ、弓引いどきどきはカッコよかった。」思い出話に花も咲きます。ここにも笑顔、笑顔、笑顔。



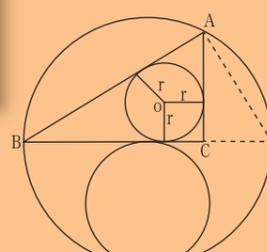
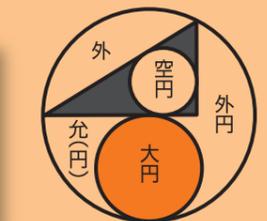
同行二人

今回のお散歩、最初からハシメさんが隣を歩いてくれたような気がします。導かれるまま、いろんな「川前」に出会うことができました。何より、ハシメさんの話をするときのみなさんの笑顔、それはハシメさんからミミへの素敵なプレゼントだったのだと思います。話を聞かせてくれたみなさん、本当にありがとうございました。これからもずっと、みなさんの笑顔が続きますように。この地にしあわせが降り続きますように。どこまでも高い秋の空にそう祈りました。おしまい。



さんかく算額ってご存知ですか?

算額とは、額や絵馬などに数学の問題を記し、神社仏閣に奉納したものです。問題が解けたことを感謝し、更なる学力向上を祈願したものと言われています。このような習慣は世界に類例がないとか。やっぱり日本人が数学好きなんですか・・・。ちなみに現存する算額の数なんと福島県が日本一の103面。他県と比べ、学者ではない、一般の農民による奉納が非常に多いんだそうです。興味深いですね。こちらに掲載したのは、今回例大祭にお邪魔させていただいた上桶売熊倉神社の算額。天保14年(1843年)に上神谷村(平上神谷)の須藤源重という方が奉納したものだそうです。我こそはと思わん方、解法を隠してぜひ挑戦してみてください。額には2つの問題が記されていますが、1問目のみ内容を記します。



【問】図のような大円あり、その径5寸。ただし外円の径は大円の径の倍で三角形の底辺は8寸である。空円の径は幾らか。

【答】空円の径は3寸。

三平方の定理により
 $AB = \sqrt{BC^2 + CA^2}$
また $\triangle OAB + \triangle OBC + \triangle OCA = \triangle ABC$ より

$$r(AB+BC+CA) = BC \times CA$$

$$r = \frac{BC \times CA}{AB+BC+CA}$$

題意より $BD=10, BC=8, CD=2$
 $BC:CA=CA:CD$ であるから $CA=4$

【略】
 $AB = 4\sqrt{5}$

【略】
 $r = \frac{8 \times 4}{4\sqrt{5} + 8 + 4} = 1.52786404 \dots$

あれ?空円の径は3.05572809...で三寸になりません。もう一度よく額を見てみると・・・「答日空円径三寸有口(←最後の文字判読不明)」。え!?答えは「三寸ちよつと」みたいなこと?そんなのアリ?アリか。あはは。日本で独自に発達した数学「和算」は、世界最高水準に達する分野もあつた訳ですが・・・ここではお茶目な部分の紹介になってしまいましたね。(出展:いわき市史 文化篇)

みみたあしミピ No.5 川前篇 新鮮野菜のうまみがそのまま 川前いんげんの素揚げ

東京大田市場で品質日本一と云われたこともある川前いんげん。実は葉たばこ減反のあと、代替作物として推進されたものでした。今回のレシピはぜひこれで!と思いましたが、なかなかみなさんお忙しい時期・・・。別件で大ヒノキの宇佐見初恵さん宅を再訪したところ、玄関に袋いっぱいはいんげんが!「コレ最後の採ったどご。全部持ってきな。」と抜群のタイミング。初恵さん!これで何か作ってください!「なに?やだよオラ。絶対やだ。」嫌がる初恵さんに粘ること2時間・・・。相当無理を言って作っていただきました。初恵さん、本当に本当にすみません・・・。「いづもやっつるごどしかできないよ。」それでいいんです!それがいいんです!お願いします!

- 材料
- 川前いんげん: お好きなだけ
 - 根ショウガ: お好み
 - めんつゆ: お好み
 - サラダ油: 適量
- ※油がはねるのでご注意ください。



これって品種は・・・?「ケンタッキー。」へえー。まずは・・・「しっぺだ取って、筋は取なくていいだ、これは。」なるほど。揚げるときのコツとかあるんですかね・・・?(時期が) 終わりののは固いからね。夏のうぢならホラ、柔らかいからすぐだげど。よく揚げたほうがいいよ。・・・わあ、きれいな色。「あどは根ショウガ摺って、めんつゆでも醤油でも好きなのかけて、もう終わり。あはは。」うわ・・・おいしそう・・・ではさっそく!



うん!青臭さではないんだけど独特の風味があつて、さっぱりとやわらかい歯ごたえ。油で揚げた分こつとりとコクが出て・・・これはお酒にもご飯にもよく合そう!おいしいです!「マヨネーズなら茹でだ方がさっぱりしていいがな。あだは食べねんだ、マヨネーズ。ま、好きに食べな。あはは。」

